

千年の森便り No.187

2019.2.22

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 坂本文雄 編集 真鍋昌義

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

2月17日(日曜日)曇

吊り橋を渡って林内に一步踏み込むと、足元から湿った落ち葉の臭いがしてきました。万人好みの良い香りとは言えませんが、豊かな自然に身を包まれている感じがして私は好きです。当日予定していた照度調査の担当と持ち場が決まったのを見極めて、農地の作業に移動しましたので島内の様子は見ていませんが、照度調査は順調に終わったようで、引き続き予定されていた危険木処理のチェンソーの音が聞こえました。

お昼は例によって暖かい汁ものをすすって体を温めました。2時過ぎ急に北から黒雲が湧き出し、びっくりするような大音響の雷鳴が轟きました。前線が通過したようです。その後、1時的にあられを伴った雨が降りましたが、解散後で難を逃れました。寒い中参加の皆様お疲れ様でした。(坂本)

参加は秋元、伊藤、及川、大原、久我夫妻、坂本、根本、福島、真鍋、松田、山口の12名でした。



○危険木の伐採



3本絡み合ったかかり木の伐木は高度の技術で



チルホールで牽引して安全確実にかかり木倒し

根本さん、山口さんの指揮のもと、7名で千年広場から北西方向5~6mにある危険木の伐採を行いました。風害を受け根元が浮いてしまったのか、伐採する前からかかり木同様のいろいろな意味で危険な状態でした。大げさに言えば、放置して会員や島を訪れる観察者を危険にさらすか？危険な作業であることを承知で伐採するか？の究極の選択です。ちなみに、『かかり木の除去』は、千葉県林業における死傷事故の主要原因となっており、毎年1位または2位にランクされている危険作業と記憶しています。

途中、用具置き場に落ちるのでは？という場面もありましたが、チルホールなど用具を有効に使用し、互いに協力・注意しあい、慎重のうえにも慎重に作業を行った結果、無事に伐採を完了しました。参加者各位、お疲れ様でした。これからも今日同様のメンバーで、会員外の訪問者を含め、島で活動する人たちの安全確保に努めたいと思います。（及川）

○相対照度調査（落葉期）

コナラ伐採地を中心に落葉期の相対照度調査を行いました。お天気は予報がはずれてどんよりした曇り空となり、照度が安定して相対照度の調査には適したお天気でした。調査時間は、10:10~11:00、調査人数は、橋の上1人、広場ほか1人、岬のヒメコマツ植栽地2人、コナラ伐採地5人、記録1人の計10人で実施しました。測定に使用した機器は、照度計8台、トランシーバー4台です。測定箇所は、コナラ伐採地が20地点（A-1~D-5）と、千年広場、コナラ更新林の苗畑、岬のヒメコマツ植栽地の計24地点です。



先ず照度計とトランシーバーの操作説明

表1にコナラ伐採地（20地点）における相対照度を、表2にコナラ伐採地（平均値）を含めた全測定箇所の2014年からの相対照度の変化を示しました。コナラ伐採地の相対照度は、最大が73.8%、最小が50.8%、平均が62.4%となり、比較的安定した値となりました。また、岬ヒメコマツ、コナラ更新林苗畑、千年広場の相対照度は、42.4%~56.4%となり、コナラ伐採地よりも少し低めの値でした。（福島）

表1 コナラ伐採地の相対照度（%）（2019.2.17）

	1	2	3	4	5
A	66.4	62.9	50.8	67.1	62.7
B	73.8	67.3	62.6	68.2	63.7
C	66.6	57.8	62.6	67.6	58.9
D	63.6	60.8	55.2	56.4	53.2

表2 島内5地点の落葉期の相対照度の変化

測定箇所	相対照度（%）					
	落葉期	落葉期	落葉期	落葉期	落葉期	落葉期
	2014.2.23	2015.2.15	2016.2.13	2017.2.19	2018.2.18	2019.2.19
千年広場中央	63.9	71.5	60.3	52.4	38.5	42.4
コナラ更新林の苗畑	56.7	67.6	63.6	52.1	38.5	56.4
コナラ更新林ヒメコマツ	77.3	76.6	73.5	65.4	48.2	
岬ヒメコマツ	44.4	66.9	65.3	70.8	68.8	44.0
コナラ伐採地	71.9	82.2	73.1	65.0	65.8	62.4

コナラ伐採地は、2015年2月以降20地点の平均値

○植物観察

相対照度調査のあと、お昼までの時間で植物の観察を行いました。

スハマソウ

吊り橋の下の植生保護柵付近からホコラ山方向まで、湖岸沿いを歩いてスハマソウを探しました。その結果、葉は所々で見つかるものの花を咲かせている個体はなく、つぼみをひとつ着けている個体が1個体だけ見つかりました。

コセリバオウレン

去年は花が見つからず衰退傾向にあると思われましたが、今年は残念ながら葉を見つけることもできませんでした。

コショウノキ

前回の活動で、保護のためのネットをかけたためか食害はなく白いつぼみを着けていました。もう少しで開花しそうです。（福島）



北側急斜面でコセリバオウレン探し



スハマソウの蕾



コショウノキの蕾



ミヤマシキミの蕾



アセビ



スギの雄花

オニシバリは変わり者

吊り橋を渡って直ぐの右側にあるオニシバリが、真冬にも拘わらず葉を茂らせて花を咲かせていました。改めて考えるとこの木は相当の変わり者です。普通の落葉樹が葉を落としている冬に葉を茂らせ、逆に夏にはあたかも枯れたように坊主になっています。



花期 2月から3月



着果期 6月から7月 間も無く完全落葉か

この生き方のメリットは林床に生える灌木でも落葉期であれば日光が得られる事だと思います。但し、夏の日照時間に比べれば短いし、太陽の角度も低いので弱光線となり光合成の量は少なくても、その代わり呼吸に消費するエネルギーが少ないので差し引きでは案外いい線いっているかも知れません。収入は少なくても支出を切り詰めて生き延びる戦略に見えます。（坂本）

○農地での作業

山菜のウルイ（オオバギボウシ）を植えたいので、その準備として30mほどの畝を一行作りました。元々水田ですから、そのまま植えたのでは水分過多で根腐れの恐れがあると思い、土を盛り上げて高畝にしました。

軽トラで通りかかった農家の方が「何を植えるのか」と尋ねるので「手間のかからない山菜系のものにした」と答えると「手作業では大変だな、トラクターなら簡単なのに」と同情とも呆れ顔とも取れる表情で立ち去りました。些細な事でも言葉を交わし挨拶するのが地元を受け入れられる最初の一步ですから、これも良い機会だったと思います。

ブルーベリー植え付け用地も作りたかったのですが、予定の半分で時間切れとなりました。尚、この農地をこれまで島外農地と呼んでいましたが、語感も良くないし面白くないので、もっとラブリーな名前にしたいと提案がありました。センスのある名前を募集します。



オオバギボウシの畝づくり



タラノキ植え付け



植えたタラノキは支柱でガード

○タラノキの植え付け

休耕田の南側の一角にトゲなしタラノキを15本植え付けました。植え付けの作業は、真鍋さん、大原さん、久我夫人と私の4名で行いました。

このタラノキの親木は数年前に生協で購入し、庭で楽しんでいたものです。高さ3.5m幹周24cmに成長し、飛散した種から毎年7,8本のタラノキが生垣の中に生えてきます。今日のために仮植えしていたものを持参しました。

ネット情報ですがタラノキの植え付け時期は12月から3月で乾燥地を好むとなっていました。植え付け場所の土の状態は、粘り気の強い粘性土で表面は褐色下の方は黒褐色を呈していて、含水比は高いようでした。家庭菜園で培った知識を基に植穴の大きさ、支柱の立てかた、縛り方等の手順を4人で確認しあいながらの作業でした。乾燥地ではない為、何本根付くか分かりませんがこの春の成長を見極めタラの芽の収穫時期を楽しみに思い描いています。（秋元）

○豪華なみそ汁でポカポカに

島外農地での昼食に際して恒例となった暖かい汁物の提供ですが、今回は簡単な味噌汁のつもりで準備していました。ところが皆さんの持ち寄った野菜類や餅などが盛りだくさんで、いつもに増して豪華な一品となりました。暖かいもので体と気持ちもちが暖まり、4月以降の活動予定や農地に植える作物などについて話がはずみました。

なお、島外農地との呼び方ですが、せっかくの土地ですので大事に使わせてもらおうと同時に、親しみやすく呼びやすい名前をつけたいものです。（伊藤）



お知らせ

〇3月活動日

3月17日(日) 9時30分 君津市清和自然休養村管理センター集合。ニホンジカ個体数調査、ヒメコマツ成長状況調査(樹高、直径計測)、ホテイ岬地区整備、植物・野鳥・昆虫調査など。

4月活動日は3月20日過ぎにお知らせします。5月以降の活動日は4月の年次総会で決まり次第、お知らせします。